学校番号	１００６

令和２年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅰ	単位数	３単位	年次	１年次
使用教科書	「最新数学Ⅰ」　（数研出版）						
副教材等	３ＲＯＵＮＤ　数学Ⅰ＋Ａ　（数研出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

授業の予習をして、何がわからないかを明確にする。
必ず自分で解き、理解を深め・計算力をつけ・表現力を高める。
わからない問題でもあきらめず、その問題の核心を見つけ、理解できたら解いてみる。
どうしてもわからない問題があったら、質問に来ること。そのままにしておかないことが大切である。

２　学習の到達目標

中学までの学習内容の理解及び確認を徹底し、高校数学へのスムーズな移行を図る。
数と式，2 次関数，図形と計量及びデータの分析について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに，数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:数学的な見方･考え方	c:数学的な技能	d:知識・理解
観点の趣旨	数と式，2 次関数，図形と計量及びデータの分析の論理や体系に関心をもつとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	数と式，2 次関数，図形と計量及びデータの分析において，事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方や考え方を身に付けている。	数と式，2 次関数，図形と計量及びデータの分析において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数と式，2 次関数，図形と計量及びデータの分析における基本的な概念，原理･法則などを体系的に理解し，基礎的な知識を身に付けている。
評価方法	・学習活動への取り組み ・課題・提出物の状況 ノート，プリント等	・定期考査 ・小テスト ・提出ノートの内容	・定期考査 ・小テスト	・定期考査 ・小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	第1章　数と式	第1節　数と式 1.　整式 2.　整式の加法･減法･乗法		○	○	○	b:分配法則が理解できている。 c:同類項をまとめて整式を整理することができる。 d:単項式や多項式、整式、次数、係数、項について理解している。	各学期100点法による。 ①出席状況 ②平常点 取り組み 提出物 ③定期考査
		3.　展開の公式 4.　式の展開の公式 5.　因数分解 6.　いろいろな因数分解	○	○	○		a:　複雑な因数分解に取り組もうとする。 b:おきかえを利用し、多項式の公式に帰着させることができる。 c:因数分解の公式を用いて式を因数分解できる。	
		7.　実数 8.　根号を含む式の計算	○		○		a:有理数と無理数の違い、および実数について理解している。 c：平方根を含む式の計算ができる。	
		第2節　1次不等式 9.　不等式 10. 不等式の性質		○	○		b:不等式の意味を理解し、数量の大小を不等式を用いて表すことができる。 C:不等式の性質における不等号の向きを判断することができる。	
		11. 1次不等式の解き方 12. 連立不等式 13. 不等式の応用	○		○		a:身近な問題を 1 次不等式を用いて解決しようとする。 c:1 次不等式、連立不等式を解くことができる。	
		第3節　集合と命題 14. 集合と部分集合 15. 共通部分、和集合、補集合 16. 命題と集合 17. 命題と証明			○	○	C:共通部分、和集合、補集合を求めることができる。 d:命題や条件、必要条件や十分条件の意味を理解している。	
2	第2章　2次関数	第1節　2 次関数とグラフ 1.　関数 2.　関数とグラフ		○		○	b:身近な問題を関数の式で表すことができる。 d:座標平面、1 次関数と直線について理解している。	①出席状況 ②平常点 取り組み 提出物 ③定期考査

		3.　2次関数のグラフ			○		c：頂点、軸を理解し、それぞれのグラフを書くことが出来る。	
		4.　2次関数の最大･最小			○		c:２次関数の最大値、最小値を求めることができる。	
		5.　2次関数の決定			○		c:与えられた条件を関数の式に表現し、２次関数を決定することができる。	
		第2節　　2次方程式と2次不等式 6.　2次関数のグラフとＸ軸の共有点			○		c:２次関数のグラフと X 軸の共有点の個数や位置関係を判別式の値から考察できる。	
		7.　2次不等式 ８．２次不等式の応用	○		○		a:身近な問題を２次不等式を用いて解決しようとする。 c:２次関数のグラフを利用して２次不等式を解くことができる。	
3	第3章　図形と計量	第1節　三角比 1. 鋭角の三角比		○	○	○	b:三角比の値が角の大きさによって定まることを理解している。 c:直角三角形において三角比の値を求めることができる。 d:三角比は直角三角形の辺の比であることを理解している。	①出席状況 ②平常点 取り組み 提出物 ③定期考査
		2. 三角比の応用			○		c:三角比を使って,距離や高さを求めることができる。	
		3. 三角比の相互関係			○		c:三角比の相互関係を用いて，三角比の 1 つの値から残り 2 つの三角比の値を求めることができる。	
		4. 三角比の拡張 5. 三角比が与えられたときの角		○	○		b:座標を用いた鈍角の三角比の定義を理解している。 c:鈍角の三角比の値を求めることができる。	
		第2節　正弦定理･余弦定理 6. 正弦定理			○		c:正弦定理を用いて三角形の外接円の半径や辺の長さを求めることができる。	
		7. 余弦定理			○		c:余弦定理を用いて三角形の辺の長さや角の大きさを求めることができる。	

		8. 三角形の面積			○		c:2 辺の長さとその間の角の大きさが与えられた三角形、3 辺の長さが与えられた三角形の面積をそれぞれ求めることができる。	
		9. 図形の計量 発展　ヘロンの公式		○	○		b:正弦定理や余弦定理を用いて，測量問題が解決できる． c: ヘロンの公式を使って，三角形の面積を求めることができる．	
3	第4章　データの分析	1. データの代表値 2. データの散らばり 3. 四分位範囲 4. データの相関 5. 相関係数 6. データ分析	○	○	○		a:身近な統計における代表値の意味について考察しようとする。 c:平均値や最頻値，中央値の定義や意味を理解し，それらを求めることができる。 b:データの分布の仕方によっては，代表値として平均値を用いることが必ずしも適切でないことを理解している。	①出席状況 ②平常点 取り組み 提出物 ③定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:数学的な見方・考え方
c:数学的な技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。